

気候情報

2010年7月の日本の天候

- 中旬は東・西日本で記録的な大雨となった
- 北・東日本では月平均気温はかなり高かった
- 北海道地方と沖縄・奄美では月降水量がかなり多く月間日照時間はかなり少なかった

7月の天気概況

上旬は梅雨前線が本州付近から本州の南に位置することが多く、全国的に曇りや雨の日が多かった。中旬になると、梅雨前線は本州付近から日本海まで北上し、太平洋高気圧の縁辺を回って南から非常に暖かく湿った空気が流れ込んだため、東・西日本では記録的な大雨となったところがあり、九州、中国、東海地方を中心に浸水害や土砂災害などが発生した。中旬の終わり頃からは太平洋高気圧が日本付近で強まったため、東日本以西では晴れの日が多くなり、東日本を中心に日最高気温35°C以上の猛暑日となるなど各地で厳しい暑さが続いた。一方、北海道地方と沖縄・奄美では南からの暖かく湿った気流の影響を受けやすかったため、平年に比べ曇りや雨の日が多かった。このため、北海道地方と沖縄・奄美では月降水量がかなり多く、月間日照時間はかなり少なかった。

北日本では、例年ではこの時期に現れることの多いオホーツク海高気圧の影響がほとんどなく、南からの暖かく湿った空気が流れ込みやすい状態が続いたため、月平均気温はかなり高くなった。また、東日本でも下旬の平均気温が7月下旬としては1961年以降第1位の高温となったのをはじめ月を通じて平年を上回り、月平均気温はかなり高くなった。

上旬：梅雨前線が本州南岸に位置することが多く、また北日本へも暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、全国的に曇りや雨の日が多かった。特に、3日は梅雨前線上の低気圧が西日本を通過し、東・西日本の一部では大雨となったほか、4日以降も上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、全国の所々で局地的な大雨があった。

中旬：梅雨前線が本州付近から日本海まで北上し、太平洋高気圧の縁辺を回って南から非常に暖かく湿った空気が流れ込んだ。このため東・西日本では16日にかけて記録的な大雨となったところがあった。17日頃以降は太平洋高気圧が本州付近に張り出し、東日本以西では晴れて気温が上がった。一方、北日本では気圧の谷の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。

下旬：東日本以西では太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が多かった。東日本を中心に日最高気温が35°C以上の猛暑日となったところがあるなど厳しい暑さとなった。また、強い日射で地表付近が熱せられたことと上空の寒気の影響により大気の状態が不安定とな

り、午後は雷雨となる日が多く一部では突風の被害も発生した。一方、北日本では、気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。なお、29～30日にかけては太平洋高気圧の勢力が一時的に弱まり、南から暖かく湿った空気が流れ込んだため全国的に雨となり、北日本日本海側や東・西日本太平洋側では大雨となった。

7月の気候統計

月平均気温：北日本と東日本でかなり高く、西日本で高かった。沖縄・奄美では平年並だった。

月降水量：北海道地方と沖縄・奄美でかなり多く、西日本太平洋側が多かった。東北地方、東日本および西日本日本海側では平年並だった。

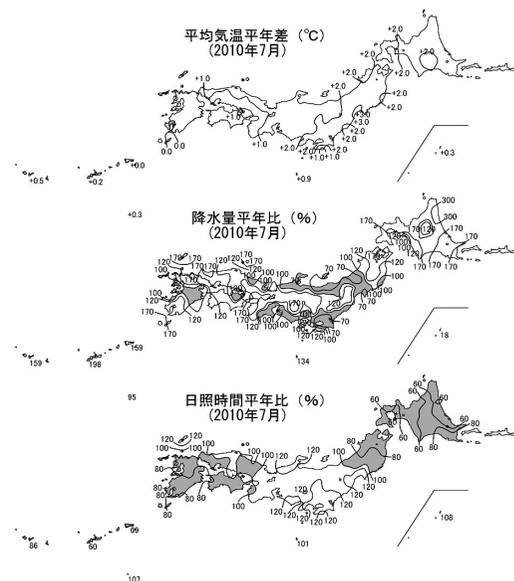
月間日照時間：東日本で多かった。一方、北海道地方と沖縄・奄美ではかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった。東北地方と西日本日本海側では平年並だった。

(気象庁観測部統計室)

7月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温高い方から（°C）
仙台 25.3 千葉 27.7
- ・月降水量多い方から（mm）
稚内 233.5 北見枝幸 304.5
雄武 294.0 三宅島 502.0
- ・月間日照時間少ない方から（時間）
札幌 73.9 苫小牧 50.3 浦河 62.8
久米島 154.1 那覇 146.2 名護 138.9

2010年7月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。